

副 議 長 受付番号第8号、秋田谷光彦君の一般質問を許します。登壇願います。

5 番 秋 田 谷 よろしくお願いいたします。それでは、議長の許可を頂きまして、一般質問をさせていただきます。

受付番号第8号、質問議員、第5番 秋田谷光彦。件名、行政への無関心と女性の社会活躍について。

要旨。(1) 令和元年の町会議員選挙は無投票でございます。昨年の選挙はかろうじて選挙戦となりましたが、行政への関心低下を露呈したという感じがいたします。特に投票率も低く、改善の必要があります。来年は町長選挙もありますが、行政としての対策をお聞かせください。

(2) 女性活躍について、国は目標を掲げています。町も計画を立てていると思いますが、活躍の場を考える必要があると思います。各種団体や審議会、地区役員、議会も女性が少数で男女比が適正とは言えません。一層の女性の社会進出を期待しなければ、これからの日本は成り立ちません。そういう時代になりました。施策を伺います。お願いいたします。

町 長 それでは、秋田谷議員の御質問に順次お答えをさせていただきます。

初めに、選挙の執行につきましては、選挙管理委員会が所管をしておりますので、本来私の立場にてお答えすることは控えなければいけないとは思いますが、御質問を頂きましたので、私の考えとか感じていることについて述べさせていただくということで、御承知のほど、よろしくお願いいたします。

投票率につきましては、投票日の天候の影響や有権者の関心などに左右されますが、近年の選挙で申し上げますと、国政の選挙は微増であるものの、町長選、町議会議員選ともに投票率は下落傾向であります。各選挙の世代別投票率においても、18歳、19歳の投票率よりも20代から30代の投票率が最も低く、年代を重ねるごとに投票率が上がってまいりますが、80代以降になると投票率が下がるというふうな傾向が見受けられます。

選挙管理委員会では、これまで有権者に関心を持ってもらい、投票率を上げるために様々な取組を行っておられ、令和5年の町議会議員選挙では、初めて町議会議員の選挙公報を作成し、町内全ての世帯に配達をされております。期

日前投票期間や投票日には、広報車で未投票の方への投票を促したり、令和5年の町議会議員選挙からは、最新の選挙は、投票率を防災無線で放送するなど、周知が行われております。

今後のさらなる改善策として、先ほど概略をお伝えさせていただいたとおり、世代別投票率は、20代から30代の世代の投票率が一番低いので、その世代を中心に底上げについて対応するのが望ましいのではと感じております。20代から30代の投票率が低い主な理由として推測しておることはですね、選挙や政治が分からないとか、興味がないとか、投票したい候補者や政党がないとか、仕事や趣味が忙しいとか、投票所に行くのが面倒などなど様々な理由じゃないかというふうに推測しております。

選挙管理委員会では、現在若い世代の方を対象に、二十歳のつどいの場において、選挙啓発の物品の配布を行っておりますが、今後さらに選挙の関心を持っていただけるよう取組を行うのがよいのではないかと感じております。選挙や政治が分からない、興味がないということであれば、町行政がやっていることをもっと知り、参画していただく必要があります。土・日に開催する行事や町政懇話会、スポーツイベント、また新たに庁舎見学などを開催し、行政の関心を醸成させる機会を設けることや、期日前投票や投票日の投票立会人を選挙権を持つ若い世代に選任するなど、選挙に関心を持つ機会の確保につながると考えております。

投票したい候補者がいない、政党がない、仕事や趣味が忙しいということであれば、町広報やホームページを活用し、今まで以上に分かりやすい選挙の紹介や期日前投票、不在者投票などの制度の丁寧な掲載はもちろんのこと、デジタル化時代に即した若い世代がなじみやすいSNSなどを活用し、若者の関心を引く選挙情報の発信をするなど、新しい取組も必要ではないかというふうに考えております。

また、選挙管理委員会から教育委員会に依頼をして、次世代を担う子供たちに大切なことは、みんなで決めるという民主主義のルールを体験してもらうために、小学生や中学生の世代を対象に、学校内のルールを決めるときは、基本

的には児童・生徒が話し合いで決めておりますが、選挙などという手法を用い、学校内でのルールを決めるとか、中学校では、生徒会長を決める選挙はありますが、小学校は学校生活に選挙を体験することがないので、選挙というものを通じて民主主義のルールを体験する機会を設けてもらうなどをお願いするのも一案かというふうに思っております。

さらには、投票所に行くのが面倒という理由であれば、若い世代のみならず高齢者の方を対象に、駅前など、人が集まる場所に期日前投票所の設置や移動期日前投票所の実施、高齢者の移動支援として社会福祉協議会への委託や「のるーと足柄」などを利用して投票所へ行くなどの取組について、今後も検討されるのがよいのではと思う次第でございます。私も投票率が上がり、町の未来をみんなで決める町になることが望ましいと考えておりますので、可能な限り対応をさせていただきます。

2つ目の御質問にお答えをいたします。初めに、現在の松田町男女共同参画プランについては、令和4年4月に改定を行い、令和5年から令和9年までを計画期間として、男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によってあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、社会的、経済的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を負うべき社会を目指しております。

令和4年度に実施いたしました町民アンケート調査や2020年国勢調査における男女共同参画の意識に関するデータでは、固定的性別役割分担意識として、夫は外で働き、妻は家庭を守るという質問に対して、5割が賛成しないという結果であり、賛成すると回答した割合は、女性に比べて男性が多い結果となっております。町内事業者の現状では、正職員及び管理職の男女比率では、正職員の7割以上が男性で、管理職に占める女性の割合は17.6%と非常に低い状況でございます。自治会、地域の現状では、令和4年度の町内自治会アンケート調査において、過去5年間で女性自治会役員数は、男性に比べて非常に少なく、特に自治会長は0人となっております。ちなみに、役場職員の女性職員比率につきましては42.3%、女性課長級の比率23.1%となっておりますので、今

後課長級の比率が上がってくるというふうにも感じております。

そうした中、町としての施策展開については、基本目標として「男女がお互いに尊重し、性別にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を発揮できる社会へ」を掲げ、その実現に向けて政策、方針、組織における意思決定過程への女性参画を位置づけております。その主要な施策といたしましては、管理職を目指す女性への支援と、経営者の意識改革や地区役員等への女性参画意義への理解促進に取り組むこととしております。

一層の女性の社会進出には、その環境づくりを進めていくことが重要であるため、本町では、平成28年度より町民の声を聞きながら地方創生推進事業交付金を活用し、子育て、仕事、健康の3つの要素を基に、町の魅力向上に取り組むことで、女性自身のやりたいこと、そのために時間が取れるようになることなど、心に余裕を持ってもらうための一助として、旧松田土木事務所の跡地を活用し、女性活躍推進拠点施設を中心に事業を進めているところでもございます。

また、女性の社会進出については、早い時期からの男女共に意識改革が重要であることから、現在、当町では、各小・中学校において、SDGsの取組の中で、開発目標の5番目であります「ジェンダー平等を実現しよう」の中の女性のリーダーシップの確保について、教育の観点から学びに取り組んでいるところでもございます。一人一人の個を尊重し、様々な価値観を共有するため、女性を含めた多様性社会における社会進出は、大変すばらしいことと考えます。その一方で、女性の考え方や思いは様々でありますので、町といたしましても、男女共に同様な立場において活躍したいと考えているかどうかについて、さらなる研究、ニーズ調査を行い、男女共同参画社会を実現するための基本理念に基づき、地域の特性を生かした施策展開を引き続き取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

- 5 番 秋 田 谷 ありがとうございます。選挙関連問題は所管が違うということで、選挙管理委員会の所管ということでございますが、町長から丁寧に御説明を頂きまして、誠にありがとうございます。

いましばらく選挙問題をちょっとお付き合いをいただきたいなと思っております。戦後の町村議会の投票率は、昭和26年から資料が残っているようで、調べさせていただきますと、その当時、全国平均が95.92%だったそうです。今では考えられない数字でございます。それが、90%台が昭和50年代まで続いたそうでございますけども、昭和60年代から下がり始め、令和5年の後期統一選挙では55.49%まで下がり、松田町の議会選挙では56.28%でございました。ちなみに、全国の市会議員選挙は44.51%まで下がっておるそうです。専門家は、地方議員の成り手不足と投票率低下は、議会制民主主義崩壊の危機と発言しております。昨年の後半の統一選挙のデータによると、373の町村のうち123の町村で無投票です。20の町村では定員割れとなっております。これは、後期の統一選挙でございまして、前期はこれよりまだまだ多い553町村があったわけでございますけれども、私がちょっとパソコンができないものですから、後期しかちょっと調べることができませんで、大変申し訳ありません。

また、地方議員だけではなく。町村長の成り手が少なくなり、後期の場合に56%に当たる70町村で立候補者が1人だけで、無投票当選が決まり、有権者が投票の機会を失う深刻な状況です。全国の町村は926町村があるそうですが、来年はまた松田町も町長選挙がありますが、当事者として町長に一言思いをお聞かせいただければと思いますが、よろしく願いいたします。

副 議 長 秋田谷君、そのような質問は控えたほうがよろしいかと思しますので、申し訳ございません、そのまま続けていただいてもよろしいでしょうか。

5 番 秋 田 谷 それでは、国も投票率を底上げをしたいということで、若年層のまた意思を酌み取ろう、そういうことで投票年齢を18歳まで引き下げましたが、その効果はあつたのでしょうか。もし資料がございましたら、全国と松田町の18歳、19歳の投票率をお聞かせ願えればと思います。よろしく願いいたします。

総 務 課 長 総務課のほうで選挙管理委員会も兼任させていただいておりますので、私のほうから御報告をさせていただきたいと思っております。直近の国政選挙で申しますと、令和4年の7月10日に参議院選挙がございました。そのとき、18歳の投票率が、国のほうが40.1%、町の参議院議員選挙の投票率が53.9%。19歳のほうは、国

が30.7%、町の19歳が48.4%ということで、18歳、19歳を平均しますと、国が35.4%、町が50.9%ということで、町のほうが15.5%ほど投票率のほうがよろしいという形になっております。以上です。

5 番 秋 田 谷 ありがとうございます。それでは、2番目に入らせていただきます。女性活躍についても、少子・高齢化に伴い、女性の活躍と労働力を借りなければ、これから日本の社会は成り立たない時代がやってきます。議会の問題かもしれませんが、松田議会も女性議員は現在お2人だけです。日本社会や松田町においても男女共同参画、女性活躍の場など、あまりにも不均衡ではないかと感じております。また、松田役場においても女性幹部の割合が少ないように感じます。町内の自治会ということで、私は自治会長も女性がなってもおかしくないのではないかと感じてはおりますけれども、私の住んでおります神山自治会でも組長さん以外は幹部役員がいないように思います。町内において、自治会長さんが女性になれるような自治会は、現在そんなうわさがありそうですかね。近隣の町では、女性自治会長さんがおられるような話も聞いておりますが、松田町ではそのようなことはありますでしょうか。うわさ話だけでも構わないと思いますが、もしそういう情報がありましたらお聞かせください。

総 務 課 長 すみません、私のほうからお答えさせていただきます。自治会につきまして、会長さんとか副会長さん等の役職の方が女性の方じゃなきゃ駄目だというお話はですね、各自治会さんからそういうお話は聞いておりませんが、今現在は、女性の方がやられているというのは、令和5年度はゼロという話なんです、そういうような制限を設けてるとか、そういうお話は、うちのほうは聞いたことがないので、そこら辺はオープンにされていると思っております。以上です。

5 番 秋 田 谷 松田町では、こういうような保守的な町でございまして、松田町においては、女性町長が誕生するより自治会長さんが生まれるのが難しいかなという感じで私は感じております。第6次総合計画の冊子の中におきましても、その中にこれから町が支援をしていくと、そのように示されておりますので、なお一層女性の、各分野に女性登用が進むことを願いまして、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

副 議 長 以上で受付番号第8号、秋田谷光彦君の一般質問を終わります。

次は私、南雲まさ子の一般質問となりますので、議長を飯田一君と交代いたしますので、議長席に移動してください。

(飯田一議員 議長席に着席)

仮 議 長 仮議長となりました飯田一です。よろしくお願いいたします。

引き続き一般質問を行います。受付番号第9号、南雲まさ子君の一般質問を許します。登壇願います。